

# 多高通信

第129号 平成28年4月26日発行



さとく ゆたかに たくましく  
宮城県多賀城高等学校

## 祝 41回生入学式・

### 災害科学科開設式

4月8日、校庭の桜の樹々が爛漫と咲き誇る中、平成28年度入学式並びに災害科学科開設式が挙行され、普通科241名、災害科学科38名の計279名が多賀城高校へ入学しました。



災害科学科新入生の入場は多くの注目を浴びました。

入学式では、新入生の呼名のあと、小泉校長が式辞で、「皆さんを取り巻く社会は急速にグローバル化が進み、答えのない問いに挑み続ける力が求められています。将来、どのような仕事に就いても、自ら納得する答えを導きながら新しい道を切り開いていくこととなります。」と前置きし、取り組むべきこととして、「自分を律すること」と「よき友を得ること」の二点について話をしました。また、新入生を代表して、直井友香さん(高砂中学校出身)が生徒代表宣誓を行い、「多賀城高校生として、『さとく ゆたかに たくましく』の校訓のもと、多賀城高校の輝かしい歴史に恥じぬよう、仲間たちと切磋琢磨し充実した高校生活を送ることをここに誓います」と述べ、入学式は滞りなく終了しました。

#### 合唱部の校歌紹介



続く災害科学科開設式では、はじめに教育長式辞

があり、災害科学科開設の意義に触れ、これまでの多賀城高校の様々な取り組みについて紹介されました。そして、「これからは災害科学科の設置によって、防災教育を県内外に広げるパイロットスクールとしての役割が大きくなります。学校全体で防災に関する知識・技能を習得する防災教育を行いながら、災害に関する科学的見地を修得する専門的教養を災害科学科で行うことで、防災教育の充実と深化に取り組んでいただきたいと思います。」と大きな期待を寄せていただきました。

また、開設まで様々な尽力をしていただいた、今村文彦東北大学災害科学国際研究所所長の記念講話がありました。今村所長は、特に津波がもたらす甚大な災害の脅威に触れ、その防災・減災に取り組む多様な人材が多賀城高校から今後輩出されることに大きな期待を寄せていただきました。

「生徒代表誓いの言葉」は、災害科学科新入生の成田朱里さん(幸町中学校卒)が述べました。成田さんは、東日本大震災の当時に振り返りながら、「自然災害は今後も起こり続けるでしょう。私は、この

#### 災害科学科 生徒代表誓いの言葉



学科で一つでも多くの知識を身につけ、減災に貢献していきたいと考えています。」とし、最後に「私たちは、ここで多くのことを学び、未来を切り開き、大きな舞台で活躍できる人となれるよう努力していきます。また、私たちの取り組みがこの

学科で初めての活動になるため、様々な問題に直面することもあると思いますが、災害科学科一期生としての誇りと自覚を持ち、支え合いながら全ての活動に真摯に取り組み、成長していきたいと思えます。」と結びました。

#### 東北大学災害科学国際研究所

##### 今村文彦所長より、期待の言葉をいただきました。

災害科学科の開設おめでとうございます。これまで多賀城高校が取り組んできた、防災や減災についての取組は全国でも注目されている。特に被災地にある高校生が災害について正面から取り組む姿勢

は、各方面から賞賛されている。

東日本大震災は、地球で起きた初めての複合的な災害である。災害は今後も地球上のどこかで起こりうる。このような災害をいかに最小限でとどめるのか、今回の震災から多くのことを学び、教訓を発展させていくことが大切だ。発展した学びとは自然科学と人間・社会科学の融合した学びである。このような新しい学問を生徒と教員で作ってあげて欲しい。ここでの学びを膨らませ、多くの人と共有し、伝えていって欲しい。多賀城高校の学びについては研究所をあげて応援していく。

## インターアクト創立総会

### 提唱クラブ締結調印式



本校が積極的にボランティア活動へ取り組んでいることから、この度、多賀城ロータリークラブ様から、社会貢献をする高校生を支援をしたいという申し出をいただきました。国際ロータリークラブが提唱するインターアクトクラブを本校に設置するという形で様々な活動へ援助いただくことになり、3月24日、創立総会が国際ロータリーNSO 地区ガバナリー(代表 菅原裕典様はじめ多賀城ロータリークラブの方々をお迎えし、本校体育館で行われました。

#### 調印文書の披露



今後、大きな災害が起きた場合の本校生徒の被災地支援や、今年度、開催を検討している「東日本大震災メモリアル行事(仮称)などへの協力・支援が期待されています。

## 大郷町 高校生模擬議会

3月25日、大郷町議会議場で同町の高校生が町政への提言や質問を町当局に直接ぶつける模擬議会「おさと未来議会」が行われ、本校から4名の生徒が参加しました。

■日下愛梨(3年3組 大郷中出身)  
議会では人口減少を食い止めるべく、町の活性化についての話題が多く挙げられました。町長をはじめ

めとする議会の方々からは、大郷町を良くしたいという強い思いが伝わりました。私は自然豊かで温かい人々に囲まれた大郷町が大好きなので、町絵の思いを直接伝えることができて良かったです。これからの時代を担う私たち若者が、自分の意見をもち、発言していくことが、町の良さを多くの方々に伝える最善の方法だと思いました。これからも、大郷町の良き伝統を守り、住みよいまちづくりに貢献していきたいです。

## Science Edge 2016

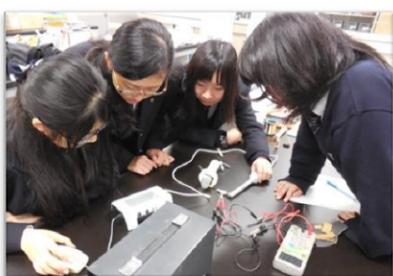
3月25日、26日の2日間、茨城県つくば市のつくば国際会議場で行われた、「つくば Science Edge 2016」に出場しました。SONY 仙台の敷地内にある「みやぎ復興パーク」内の東北大学未来科学技術共同研究センター(NICE)多賀城拠点の山邊准教授、伊藤多賀城拠点長、畠山研



究員、鎌田研究員の2指導を受けながら、39回生8名が電気自動車づくりに取り組んだ成果をポスターセッションとして発表してきました。

東日本大震災では、エネルギー供給が止まり、現在の社会システムのもろさが露呈しました。なかでも交通手段および生活基盤となる電気エネルギーの確保の在り方の改善が今後の課題です。この課題の解決方法の一つとして電気自動車の活用が考えられています。平常時には移動手段として、災害時には非常用電源として期待されているからです。今回は、電気自動車を製作するにあたり、移動手段としての有効性を確認するとともに、モーター製作を通して、モーター出力等の性能評価の在り方を検討し、モーターの改良について検討しました。

参加した生徒からは、「参加してとても面白く、刺激になった。私たちが取り組んだこの研究をぜひ後輩のみなさんにも引き継いでもらいたい。」という声も寄せられました。



モーター性能の比較実験

# 部活動 春季活動レポート

## ラグビー部 東北大会優勝!

第1回東北高等学校合同チームラグビーフットボール大会に向け、県内9校からのセレクションにより、本校ラグビー部から関内裕希、江口賢太郎、柘植勇人の3名が宮城県代表チームに選出されました。大会では宮城県代表が見事優勝を果たしました。おめでとう!

■部長 関内裕希(3年2組 塩竈一中出身)

優勝という目標をチーム全員で叶えようと日々努力してきました。最初は選手の間でも緊張感があり、プレーがかみ合わなかったり不安定な部分がたくさんあったりしました。しかし、合同練習や練習試合を何度も繰り返していくうちに、だんだんと選手同士の緊張がほぐれ、選手それぞれの持ち味が



出てきて、とても団結力のあるチームになっていました。チーム全員で体を張り守るディフェンス力を活かし、すべての試合で相手チームを抑えるという、合同チームとは思えない団結を見せることができました。

今回優勝することができたのは、周りの方々の支援があったからだと思います。先生、コーチ、マネージャー、他の部員はもちろん、地元開催ということで、家族や地元の方々など、多くの方々に支えていただき本当に感謝しています。これからは全国大会へ向けてのセレクションが控えています。一人でも多くの部員が東北代表に選ばれるよう、精一杯練習に励みます。そして、全国大会でも優勝目指して闘ってきます。

## ソフトテニス部男子 東北春季大会出場!

■部長 花谷虎太郎(3年4組 塩竈二中出身)

前年度は主に技術面でも練習を多く行ってきました。今年度はまずアップから見直し、皆がまとまり1つ1つのプレーに意味を持たせ、技術や精神面で

の向上を図ってきました。今回の大会では、県外の強豪校を相手に、多くの課題や得意なプレーを見つけることができました。今、自分たちはチーム一丸となり、インターハイを目指し日々努力を重ねています。総体では全員が悔いの残らない試合ができるように、残された時間を有効に使い、気を抜かずに努力していきたいと思っています。

## 生徒会交流行事

### 桜美林高校の皆さんが来校しました!

3月26日、桜美林高校(東京都町田市)の生徒32名と卒業生3名が来校し、まち歩きやカードゲームを通じ本校生徒会・防災委員と交流しました。

まず、多賀城イオン駐車場で3.2津波襲来の様子を動画で見た後、iPadを携えながら本校が取り組んでいる「津波波高標示プレート」を辿り「まち歩き」を体験しました。都市型津波の危険性を実際に体験しながら、「末の松山」に到着。古歌に読まれた古人の思いに触れることができました。



まち歩き・末の松山での様子



「クロスロード」を使ったワークショップ

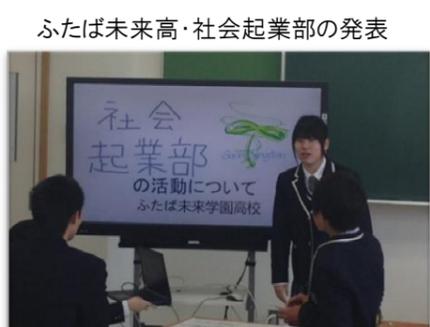
プを行いました。ここでは、震災を想定したジレンマを題材に、それぞれの立場になりきり話し合いを深めていきます。「避難所にペットを連れてきたらどうするか?」「仮設住宅で隣人がうるさい場合はどう対処するか?」などについて、Yes、Noで自分の考えを決定し、それぞれの立場で意見を交換してい

きます。生徒からは「簡単そうなジレンマでも、良く考えると配慮すべきことが多くあることに驚いた。」「その人の立場になりきることで今まで見えなかった被災者の悩みが理解できた。」などの声が上がりました。

最後に、七ヶ浜の被災状況と復興の様子を見学しました。復興工事の進む菖蒲田浜を經由し、七ヶ浜国際村を訪問。国際村の高橋勉事務局長から、震災当時の様子や復興の様子を聞くことができました。

## ふたば未来高校へ行ってきました!

3月29日、福島県立ふたば未来学園高等学校に向かいました。「変革者たれ」という建学の精神のもと、「自立」「協働」「創造」を校訓とする開校1年目の新しい学校で、原発事故の被災地の学校としてメディアにも多く取り上げられています。原発事故が



ふたば未来高・社会起業部の発表

地域社会に与えた影響を「演劇」で表現する活動が授業に取り込まれており、題材は生徒が実際に聞き取りを行い、関心の深い内容を取り上げています。また海外交流では、福島県で原発事故があったことすら知られていなかったことも発表されました。

「社会起業部」の活動発表では、「学校及び地域の活性化」というテーマをもとに、「高校生にしかできない活動」の実践について説明がありました。その後、多賀城高校の防災活動についての発表を行い、グループディスカッションを行いました。「宮城→津波 福島→原発」という視点から、震災の風化を防ぐ方法や、風評被害をどのように無くしていくかなどについて話し合いが持たれました。



一緒に昼食もいただきました

午後は原発事故の対応拠点であるJビレッジの見学に行きました。震災直後、福島第一原発の処理にあたった作業員の除染、車両の除染、物資の保管などを行ったこと、現在は1日に3500人を送り出す人員輸送の拠点

Jビレッジの見学



になっていくことなどを説明して頂きました。また廃炉に向けての方法、現状についても教えていただきました。短い時間でしたが、ふたば未来高校の独創的で自主性に満ち溢れた活動、そして福島第一原発の現状について知ることができました。

## 熊本地震 募金活動報告

### ご協力ありがとうございました



熊本県熊本地方で発生した「熊本地震」の被災地支援のため、生徒会執行部の生徒とボランティア同好会のメンバーが、多賀城駅や下馬駅を中心に募金活動を行いました。「被災地支援のため募金にご協力お願いします!」という熱心な呼びかけに、多くの通行人の方々が募金に協力してくださいました。

た。おかげさまで、4月19日から22日の4日間で約35万円となりました。被災地の一日も早い復旧を願うとともに、ご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。この募金は被災地の教育復興として送金いたします。今後とも、本校の取り組む防災活動やボランティア活動に対し、皆様のご理解の程よろしく申し上げます。



撮影:写真部